

第1回三重県教育委員会障がい者雇用推進チーム会議議事概要

協議での主な意見

(障がい特性に合った業務)

- ・障がいの状況をふまえて仕事を決めることが重要である。
- ・障がいの特性に応じた仕事を行ってもらうことを基本としている。複数の従業員を通じて職員の能力を把握し、担当業務を決めるようにしている。

(職場の受け入れ体制)

- ・障がい者を受け入れるにあたっては、周りの職員の理解を深めることが重要。また、学校では生徒との関わりについての配慮が必要である。
- ・サポーター養成講座で障がい特性や支援方法を身につけることも効果がある。
- ・幹部自ら積極的に声掛けを行うことで、現場の課題を直接把握し、適切に指示をすることが効果的である。担当者が毎日接する時間を持ち、日常的な会話やコミュニケーションが大切である。
- ・実務経験のある方に障がい者の支援をしてもらっており、安心して現場を任せることができている。
- ・学生と障がいのある職員との交流会を実施することにより、職員の障がい理解はもとより、学生の障がい理解教育につながっている。
- ・障がいの特性により、座る場所や相談相手を配慮することが大事である。

(採用、定着に向けた方策)

- ・採用当初にジョブコーチなどの支援があれば定着につながるのではないか。
- ・以前の支援は仕事を覚えるための作業支援が多かったが、最近はケース会議などで課題事項や不安な事項にポイントを置いた支援が増えている。
- ・担当者による情報交換の場を設けることが、課題や悩みを解決した事例を直接聞く機会になり、そのことを職場でフィードバックすることで、定着につながるのではないか。

- ・障がいの特性により、勤務時間を工夫するなど、柔軟な働き方を導入していくことで、新たな採用や定着につながるのではないかな。
- ・様々な障がいの人が仕事をするを考えると、在宅勤務の導入について検討してはどうか。ICTを活用することにより複数の学校の業務に従事するような仕組みを考えてもよいのではないかな。
- ・特別支援学校の進路担当者が、卒業生に直接指導をしたり、企業の方に助言することが定着支援につながっている。
- ・雇用率達成とともに就労継続の議論が重要である。
- ・通勤方法が限定される人も多いので、勤務場所に配慮することが大切である。
- ・現在学校等で勤務している人が不便に感じていることや、これまで離職した人の理由を可能な範囲で把握し、定着方策につなげたい。